

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—コツをつかむと—

NO. 92



先日、学童保育室に訪問支援で伺ったときのこと、今年の干支の辰を折り紙で作る時間がありました。興味深げに先生の見本を覗き込む子もいれば、一生懸命取り組みながら苦戦している子もいます。最初から「できないよ～」とあきらめて先生の所にいく子、土俵に乗らずに居眠りを始める子もいて、多彩な姿に豊かな時間の流れを感じました。

その子は真面目に取り組むタイプでしたが、小さい頃から手先は不器用で、そのくせヘルプを出すのが上手くなく、折り紙なんて好んでやる子ではありませんでした。ところが…

「半分に折って、また広げて、線に沿って折って…」なんて作業を、見本を見ながら手元を確かめながら、わからなくなるとタイミングを見て手を挙げ、「わかりません、教えて」と訊ねていました。先生が隣りで折って見せて、「わかった？ できなかつたらまた聞いてね」と声をかけます。「うん」とうなずき、自分でやってみて、「これでいいの？」と先生に確認を。「そう上手だよ」と言われ笑顔に。満足そうでした。でもね、ここからが感動ものだったんです。

年下の子が、上手く折れずに困っていると、「僕が教えるよ」と席を立ちます。「ここをこうして、こうして」「そう、それでいいんだよ」と、すぐに技を伝授していました。

ビックリしたのは2つのことでした。ひとつは、“コツをつかむ”という学びができていたことでした。小さい頃、毎日繰り返される身支度も全力で取り組むので、しなやかにできず、いつも汗をかき、燃費も悪く、同じことを繰り返し繰り返し練習してきました。自転車に乗れるようになるために、自転車に怒りながら、自分にイラ立ちながら、親子で何度も何度も練習をしたそうです。あんずの放デイでも、しなやかな過ごし方は、今でもテーマのひとつです。そんな〇〇君が、作業工程のコツをつかんで、率先して人に教えていました。何かを作ることは嫌いではなかったのに、その何年もの積み重ねが“コツをつかむ”力を育てていたのです。

もうひとつビックリしたのは、“人に教えよう”という余裕と自信です。困ったことがあると、フリーズしてしまうタイプでした。今だってそんな場面はあります。でも、“好きこそものの上手なれ”の言葉がまさにピッタリ。その場面のフットワークは軽快でした。好きなもの、得意なものができる、人は一歩も二歩も前進できる。本当に素晴らしいと思いました。

“コツをつかむ”って、どういう手応えのことを言うのでしょうか？“ここを押さえておけばいい”“これがこれにつながるから”“ここはそのまま大丈夫”と学びながら、ゴールをイメージして進めていくことなのかなと思います。

子ども達との関わりもそうですね。あれこれ注意するよりも、タイミングを見て、取るべき行動をひと声かければOKだったり、“してほしくないことがあれば、まずはあれを準備”だったり。トイレットトレーニングがひと段落すると、他の食事や身支度への働きかけ方にも応用できたり。まさに“コツ”ですね。大人も子どもも、いろいろな体験の積み重ねが、“コツ”という名のスキルアップにつながっているのかなと思います。余裕や自信もそこから生まれてきます。

誰かに任せてしまったら、その“コツ”はつかめません。手応えがありませんからね。一緒にやったり、一緒に考えたり。今年もそんな一年にしていましょ！(R6. 1) K

